

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考	
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数				
理学療法 科	人	人	6人	人	6人	6人	6人	人	35人	20人	
計	人	人	6人	人	6人	6人	6人	人	35人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	基礎理化学	30	菊地 潤 (オムニバス)	専任
		医療概論	15	持田 誠	兼任
		コミュニケーション論	15	菊地 潤	専任
		心理学	15	井古田 大介	兼任
		人間発達学	8	小松 昌久	兼任
		情報統計論	15	臂 貴紀	専任
		基礎運動学	30	菊地 潤 (オムニバス)	専任
		医療基礎統合論	30	菊地 潤 (オムニバス)	専任
専門基礎 分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	人体構造・機能学Ⅰ	15	持田 誠	兼任
		人体構造・機能学Ⅱ	15	小池 武則	兼任
		人体構造・機能学Ⅲ	15	高澤 洋二	専任
		人体構造・機能学Ⅳ	15	山野井 裕子	専任
		人体構造・機能学Ⅴ	15	持田 誠	兼任
		人体構造機能演習	30	菊地 潤	専任

専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	基礎病態論	15	持田 誠	兼任
		臨床病態論	15	持田 太郎	兼任
		臨床心理学	15	井古田 大介	兼任
		精神疾患論	15	井古田 大介	兼任
		整形障害論	30	小池 武則	専任
		内部障害論	30	山野井 裕子	専任
		神経障害論	30	高澤 洋二 (オムニバス)	専任
		発達障害論	8	小松 昌久	兼任
		老年学	15	持田 誠	兼任
専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論Ⅰ	15	小川 紀子	専任
		多職種連携論	15	小川 紀子	専任
専門分野	基礎理学療法学	生活環境論	15	小川 紀子	専任
		運動療法総論	15	菊地 潤	兼任
		臨床運動学	15	臂 貴紀	専任
専門分野	理学療法管理学	理学療法管理学	15	小川 紀子 (オムニバス)	専任
専門分野	理学療法評価学	理学療法評価学	30	菊地 潤	専任
		理学療法評価学演習	60	高澤 洋二 (オムニバス)	専任
		理学療法評価技術論	60	小池 武則 (オムニバス)	専任
専門分野	理学療法治療学	整形障害理学療法	30	小池 武則	専任
		神経障害理学療法	30	高澤 洋二 (オムニバス)	専任
		内部障害理学療法	30	山野井 裕子	専任
		物理療法学	15	高森 正祥	兼任
		義肢・装具学	15	時田 幸之輔	兼任
		理学療法技術論Ⅰ	90	臂 貴紀 (オムニバス)	専任
		理学療法技術論Ⅱ	90	臂 貴紀 (オムニバス)	専任
		理学療法技術論Ⅲ	90	臂 貴紀 (オムニバス)	専任

専門分野	地域理学療法学	日常生活活動学	30	小川 紀子	専任
		地域リハビリテーション学 I	8	菊地 裕美	兼任
		地域リハビリテーション学 II	8	菊地 裕美	兼任
専門分野	臨床実習	臨床実習 I	23	菊地 潤 (オムニバス)	専任
		臨床実習 II	135	高澤 洋二 (オムニバス)	専任
		臨床実習 III	135	高澤 洋二 (オムニバス)	専任
		臨床実習 IV	23	小川 紀子 (オムニバス)	専任
		臨床実習 V	135	小川 紀子 (オムニバス)	専任

【自己評価 2-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床実習Ⅰ リハビリテーション施設の見学実習	1年後期	コミュニケーション論	1年前期
		リハビリテーション概論	1年前期
		多職種連携論	1年前期
臨床実習Ⅱ 検査測定実習	2年後期	理学療法評価学	1年前期
		理学療法評価学演習	2年前期
		理学療法評価技術論	2年後期
臨床実習Ⅲ 評価実習	2年後期	理学療法評価学	1年前期
		理学療法評価学演習	2年前期
		理学療法評価技術論	2年後期
臨床実習Ⅳ 通所リハビリテーションの見学実習	3年前期	地域リハビリテーション学Ⅰ	2年前期
		地域リハビリテーション学Ⅱ	3年前期
臨床実習Ⅴ 総合臨床実習	3年前期	整形障害理学療法	2年前期
		神経障害理学療法	2年前期
		内部障害理学療法	2年前期
		理学療法技術論Ⅰ	3年前期

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	理学療法科 学科会議内
委員名（委員長）	小池 武則
組織の開催頻度	1年に一度（定期） 以下の状況に応じて随時
組織の取り組み内容	・週1回の学科会議にて各科の学生支援・教育環境の状況確認と検討
	・月1回のハラスメント委員会により生徒・実習先・職員内の状況確認
	・週1回の校内巡回により破損物や教育資材等の教育環境の確認
	・2か月1回の安全管理委員会により感染症対策・教育環境の確認と検討
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL： <a href="https://www.aoi.ac.jp/medical/">https://www.aoi.ac.jp/medical/</a> ）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	理学療法科 学科内会議
	委員構成等	副校長 (小池 武則) 理学療法科専任教員 (小川 紀子 山野井 裕子 菊地 潤 高澤 洋二 臂 貴紀)
	改善の仕組みの実際	週1回の学科内会議にて各学年担任より講義の進捗状況・学生の学習状況・課題の実施状況・試験の結果などの共有を行う。必要に応じてアクティブラーニングの導入などの教授方法の検討や希望者への補習等、状況に応じて随時変更見直しを行う。年度末には学生アンケートの結果、前年度との比較、当該年度のまとめを会議にて行い、次年度の改善点等の検討を行う。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検や第三者評価の結果を共有し、改善が必要な項目の各担当が状況の再検証等を行う。その後改善案等を各委員会や学科内会議、学校全体会議へ提出し改善を図る。必要な項目についてはその後の経過を確認し報告を継続する。